

# 40周年記念事業

## 県立相模原公園日本庭園内須弥山作庭報告

作庭塾 庭守 荒川昭男

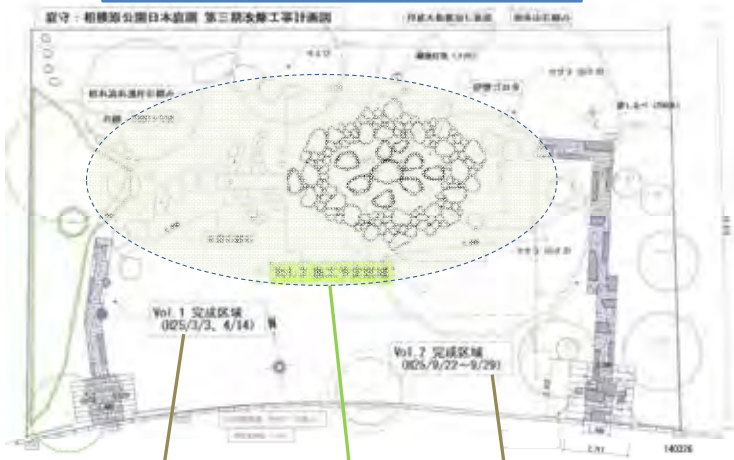


発行所  
一般社団法人  
神奈川県造園業協会  
横浜市中区常盤町2-10  
伸光ビル2階〒231-0014  
電話 (045) 662-8793  
662-1767  
FAX (045) 662-4381  
年間購読料 3,150円  
(郵送料を含む)  
ただし会員の購読料は会費に含まれています。



<http://www.kanagawazozen.or.jp>

(一社)神奈川県造園業協会  
創立40周年記念事業計画図



Vol.1 施工前 2013/04/14



Vol.3 施工前現況 2014/02/23



Vol.2 施工前 2013/04/14



Vol.1 施工後 2013/06/01



Vol.3 施工前現況 2014/02/23



Vol.2 施工後 2013/09/23

相模原公園内の須弥山(しゅみせん)をテーマとした作庭は、庭守の実技講習と同時に、神奈川県造園業協会創立40周年の記念事業でもあります。

2月23日の地鎮祭と地割から始められた作庭は、6回にわたる施工を経過したところで、その輪郭がはつきりしてきました。

須弥山作庭以前に、庭守が施工した伊勢ゴロ太の延段から須弥山石組みまでは、木曾の大飛石と甲州鞍馬の橋石を据えましました。短冊に架けられた石橋の風情を高めるため、

当初予定にはなかった護岸石組みと、川床を三和土(たたき)で仕上げた枯流れを走らせました。

須弥山石組みを中心に、丹波の特板、大板を散らし、あわい(つなぎ)に泥かぶりを含めた丹波の小・中板に細工を加え敷き詰め、目地は黒の山目地ハケ引き仕上げとしました。

めったに使うことのない石道具を用いて、思うように割れない丹波に、皆さん苦戦しておりましたが何とか完成しました。汚した石の洗い方など

の初歩的なことも含め、現在あまり経験できない貴重な技を学んだことでしょうか。

須弥山石組みの裾は、伊勢ゴロ太3、4寸玉の葺石(ふきいし)で仕上げました。協会は、秋に須弥山の庭を具に贈呈する予定です。

当初実技講習が、協会40周年事業の一環としての作庭になることに、戸惑いがあった庭守のメンバーも、施工を重ねるとに熱意の高揚が感じられるようになりました。

これもひとえに、常時

指導して下さる渡部庭園部会長と川田副部会長さん、更に多忙の中、合間をみて指導にかけつけてくださった大胡協会副会長などの皆様方のお蔭と感謝しております。

日本庭園の石組みには、道教をもとに築かれた蓬萊神仙島や鶴亀の石組みと、仏教の宇宙説に基づき、理想郷とも聖山ともいわれている須弥山をイメージした石組みがあります。須弥山石組みの作例は、鶴亀等の石組みに比べさほど多くはありませんが、幾つか残されています。

代表的な庭に、滋賀県の三井園城寺や松尾神社、三重県の北畠神社、雪舟作と伝えられている山口県の普賢寺、島根県の万福寺等があります。

庭守の実技講習が、協会創立40周年事業として、石組みの古典を庭守独自の形に表現して残せることになりました。同時に庭守に学ぶ人達にも、庭造りの少なくなつた現代において、貴重な体験が出来たと思っております。改めてご支援いただきました多くの皆様方に、この紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

また神奈川県造園業協会40周年記念事業として、須弥山を中心とした伝統的な日本庭園造りを進めてきましたが、計画や準備、実際の作庭すべてが本や座学で得た知識とは全く別物で、常に刺激に満ちあふれていました。

まず初めに庭守として、何をどのように、どの材料で造るのか、という打合せを重ねる必要があります。全員がそれぞれ考えた図面を持ち寄り、発表し、討論をしたのですが、そのような経験のあまりない私にとっては、講師の先生方や仲間の意見は、とても刺激的で勉強になることばかりでした。

実際の現場での作庭を行う前の、道具の柄付け、石材加工の練習や準備、工事前のお清めなどの場でも、多くのことを学びました。中でも、セツトウとタンキリを使つての石の加工では多くの石を使いものにならなくしてしまい、少しでも気を抜いたり真剣に向き合わなかつたこと、思い通りに割ることができないことを身をもって知りました。講師の先生がいとも簡単に加工する様子は、それがは

貴重な作庭現場に参加して

千鳥造園工事株式会社  
遠藤 光哉

庭守の講習の場として、また神奈川県造園業協会40周年記念事業として、須弥山を中心とした伝統的な日本庭園造りを進めてきましたが、計画や準備、実際の作庭すべてが本や座学で得た知識とは全く別物で、常に刺激に満ちあふれていました。

まず初めに庭守として、何をどのように、どの材料で造るのか、という打合せを重ねる必要があります。全員がそれぞれ考えた図面を持ち寄り、発表し、討論をしたのですが、そのような経験のあまりない私にとっては、講師の先生方や仲間の意見は、とても刺激的で勉強になることばかりでした。

実際の現場での作庭を行う前の、道具の柄付け、石材加工の練習や準備、工事前のお清めなどの場でも、多くのことを学びました。中でも、セツトウとタンキリを使つての石の加工では多くの石を使いものにならなくしてしまい、少しでも気を抜いたり真剣に向き合わなかつたこと、思い通りに割ることができないことを身をもって知りました。講師の先生がいとも簡単に加工する様子は、それがは

庭守の実技講習が、協会創立40周年事業として、石組みの古典を庭守独自の形に表現して残せることになりました。同時に庭守に学ぶ人達にも、庭造りの少なくなつた現代において、貴重な体験が出来たと思っております。改めてご支援いただきました多くの皆様方に、この紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

また神奈川県造園業協会40周年記念事業として、須弥山を中心とした伝統的な日本庭園造りを進めてきましたが、計画や準備、実際の作庭すべてが本や座学で得た知識とは全く別物で、常に刺激に満ちあふれていました。

まず初めに庭守として、何をどのように、どの材料で造るのか、という打合せを重ねる必要があります。全員がそれぞれ考えた図面を持ち寄り、発表し、討論をしたのですが、そのような経験のあまりない私にとっては、講師の先生方や仲間の意見は、とても刺激的で勉強になることばかりでした。

実際の現場での作庭を行う前の、道具の柄付け、石材加工の練習や準備、工事前のお清めなどの場でも、多くのことを学びました。中でも、セツトウとタンキリを使つての石の加工では多くの石を使いものにならなくしてしまい、少しでも気を抜いたり真剣に向き合わなかつたこと、思い通りに割ることができないことを身をもって知りました。講師の先生がいとも簡単に加工する様子は、それがは

このような貴重な現場に参加させていただく機会を頂いたことに感謝しつつ、一期一会の心構えで、さらに多くのことを吸収し、自分や造園業の発展に少しでも寄与することができるよう今後も努力する所存です。

寺田 浩平

庭守に参加して6年が経とうとしています。初めはついていけない不安な気持ちだったのをよく覚えていますが、延段の講習、蹲踞の講

習、また二松庵での講習を通じその都度新しいことができるというワクワクした気持ちと慣れない手つきで石と格闘してききました。

伝統的な庭造りに携わる機会も少なく、石などにあまり触れてくることになつた私にとつてこういうことがやってみたかつたという、非常に勉強になる事の連続でした。

実際に自分で経験し座学や庭園見学を通じ学んでいくと、今までとは違つた庭の見方というものが出ていく様になり、庭づくりの奥深さと面白さを知りました。

今年度は神奈川県造園業協会の40周年の記念事業として県立相模原公園に作庭をさせて頂き、庭守としての作品を残す多くの方に見て頂けるといふ、学んできたことを発揮できる素晴らしい機会となりました。

少しの向きや角度によつて表情を大きく変える石と向き合い、三又を使つて組んでいき九山八海を表した須弥山の石組み、石道具を使い失敗をしながら苦労し加工して仕上げた丹波の延段、自然の景色になるように組んだ流れの石組みや石橋、初めての三和土など、今まで学んできたことを生かし新たなことにも挑みながら、庭守としてひとつの庭を作つて

✓ いくことが出来たことを嬉しく思います。

庭守では講師の皆さんや先輩方が長年苦勞して身につけた技術や知識、仕事に対しての心得など職人にとって財産であることを我々のような経験の少ない者に指導して頂き、本当に感謝しております。

また同年代の仲間と出逢うことが出来、大きな刺激を受けることも出来ました。

毎回まだまだ力の無さを感じ悔しい思いをしなからではあります。ここで経験し学んできたことを自分のものとし、技術を高め感性を磨き仕事に生かし、学ぶことへの情熱を継続していきたいと思えます。

### （株）イワモト プランテーション 岩本 貴成

庭守についてまず私に頭に浮かんだ事は一期一会という言葉でした。

この言葉は庭守の代表の荒川講師が常々言われていることで「この講習は二度と経験することのない一期一会の気持ちを持って受けるように。」

今、私たち庭守は県立相模原公園において須弥山の石組みを中心とし丹波石と木曽石を使った延段と飛石の伝いと枯れ流れを備えた造園工事を進めているのですが、この

一期一会という言葉は作業を進めている中でも様々な場面で感じられ、特に今回石材加工の経験の乏しい私は丹波石施工で強く感じられました。

須弥山石組の周りに丹波石を据えるのですが、まずは加工した大判。これは、皆でバランスを考えて据え、アドバイスをいただきながら修正しておさまりました。さあここからです。据わった大判と大判の間を目安に各自作業範囲を決め責任を持って施工に入ります。

予め選びやすいように広げたはずの石を持ってきては戻し、持つてきてはまた戻す。せっかく合う石を持つていっても加工に失敗し砕石に。私もそうですが隣近所でも「あっ」とか「ちくしょう」という声がちらほら聞こえてくる。集めてみると砕石は山ほどになった。自分の技術不足が悔しく石に申し訳ない気持ちになります。

加工の少ない石を見極める、石のくせを覚える、先を読んで石を張るなど。今日も沢山教えていただき、次の日、昨日より加工がうまく出来た。

昨日の失敗は、今日の糧として庭守で技術を学び、心得を学び一期一会の気持ちを大事にしてこの仕事に向き合っていきたいと思えます。



1月19日神造協会議室にて、各自の考えたプランを発表



作庭の始めに、お神酒、塩、洗い米でお清め



高価な石道具に、川田氏指導のもと鎌柄(別名牛殺し)の柄つけ



荒川氏の資材置場にて丹波の特板、大板の据え方を全員で検討



敷地内の景石、飛石、敷石、低木類等を撤去移動



作庭場所



作庭敷地内の講師打合せ



踏石に使う厚さ1尺の木曽石大板の現場搬入



長さ3mの甲州鞍馬の橋石



情報委員会の木下氏作製の掲示板



若い人達には四擔でもキツイ



木曽大板の踏石や甲州鞍馬の石橋を三叉を用いての据え付け



渡部氏指導で流れの護岸石が組まれていく



三叉で須弥山石組みを組む方針



九山八海(くせんはっかい)の須弥山石組



川田氏指導による丹波大板の据え付け



丹波大板のつなぎになる小・中板のはめ込み



須弥山石組と丹波の乱張り、石組の裾に葺石(ふきいし)を配し丹波に黒の山目地を入れる



須弥山完成



一般社団法人神奈川県造園業協会

第四十回 通常総会開催

第四十回(社)神奈川県造園業協会通常総会が五月二十一日ホテル横浜ガーデンに於いて出席者百二十九名委任状二百五十二名のもと開催されました。

大胡副会長の司会で始まり小山副会長の開会の言葉、渡邊会長挨拶の後に第三十八回会長表彰が行われ、技能功労者二十名を代表して(株)三田造園土木森住覚様、優秀技能者四十六名を代表して大橋庭園(株)大橋康広様、青年優秀技能者七名を代表して(有)植定渡部敦士様に記念品、賞状が渡邊会長より授与されました。



会長表彰

これからの益々のご活躍をご期待いたします。次いで、渡邊会長が規定により議長に選出され、第一号議案平成二十五年度収支決算報告及び監査報告が審議され満場一致で承認されました。



渡邊会長挨拶

出計画実施報告書 (3)平成二十六年事業計画 (4)平成二十六年収支予算について報告されました。最後に、高橋副会長の開会の言葉で通常総会は終了しました。

渡邊会長挨拶

本日は、この様に多くの皆様方に御参加頂きまして、第四十回の総会を開けることを心より御礼申し上げます。

今年度当協会は四十年を迎える大きな節目の年となります。

この一年間皆様方と接しまして業界環境は厳しいと言われておりますが、素晴らしい人材がこの業界に沢山いらっしゃる事を感じて

おります。その様な中で、今日も沢山の方々を表彰させて頂いた事で事になっております。厳しい環境の中で、協会運営にボランティア的形で熱心に参加して下さったり、後継者育成の指導をして下さった方々に、今我々が出来るのは、感謝状を贈呈して、その労に少しでも報いる事が大事だと思っております。

我々の業界の中で、もっとも大事に考えますのは、働く人々が明るい未来と希望が持てるような環境作りの仕事をしてゆくことです。二十一世紀は環境の時代と言われており、ますます天候異変が続く中で樹木の必要性は、年々認知されております。県のほうも大

変厳しい財政情勢の中で、我々の仕事を黒岩知事以下大変評価していただいております。必ずこれからますます我々の需要が増えていくことを期待できるものと思っておりますので、皆様方には、これからも神奈川県造園業協会が五十年そして七十年百年と続いて行き、県民の方々に喜んでいただく協会のことを考えておりますので、一人ひとりの協力がなくては出来ません。これからも色々な意味で協力、ご指導をお願い致します。本日は誠に有難うございました。

神奈川県造園業協同組合 平成二十六年通常総会開催

神奈川県造園業協同組合

通常総会が五月二十一日、ホテル横浜ガーデンに於いて開催されました。

蛭田議長のもと、第一号議案平成二十五年度会務報告及び事業報告、第二号議案平成二十五年収支決算報告が一括審議され満場一致で承認され、続いて、第三号議案平成二十六年事業計画(案)及び第四号議案平成二十六年収支予算(案)が一括審議され承認されました。



小山理事長挨拶

続いて、報告事項横浜傷害火災(株)代表取締役小倉均の保険料不正流用対応状況が説明されました。

最後に古川理事の開会の言葉で通常総会は終了し、その後懇親会が開催され和やかなひとときとなりました。

本日はお忙しい中、総会にご出席頂きまして有難うございます。組合の皆様には、平素より組合の事業運営に格別のご支援を賜りこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。さてグループ共済につきましては、昭和六十一年四

月に制度が発足し、順調に推移していましたが、平成二十三年十月に横浜傷害火災(株)代表取締役小倉均が保険料の不正流用している事が発覚し、皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、現在は、保険料の支払いと組合の保険業務につきましては皆さんのご支援をいただきながら円滑に運営をしてまいります。

(社)日本造園建設業協会神奈川県支部

第三十八回通常総会開催

五月二十一日第三十八回通常総会がホテル横浜ガーデンで開催されました。



山田支部長挨拶

次いで、報告事項 (1)平成二十五年度事業報告 (2)平成二十五年度公益目的支

その後、支部規定により山田支部長が議長に選出され、第一号議案平成二十五年度会務報告及び事業報告、第二号議案平成二十五年度収支決算報告が一括審議され満場一致で承認されました。

続いて、第三号議案役員選任が行われ、支部規定により役員が選任されました。

続いて、報告事項 (1)平成二十六年事業計画 (2)平成二十六年収支予算について報告されました。

士志田総務委員長の司会で始まり、岡田副支部長の開会の言葉、山田支部長挨拶

【新任幹事】

- 岡部 一郎 (株)東開造園土木
● 田口 英明 (田口園芸(株))
● 山田 義朝 (株)村瀬造園

なシステムが事業運営上非常に機能してきているのではと思っております。特に日造協がやっている資格制度「街路樹剪定士」は日造協の認定資格ですから、支部がないと街路樹剪定士は誕生しないわけです。

最後に、田澤副支部長の閉会の言葉で通常総会は終了しました。

日造協は全国的に見ますと本部があり、その下に総支部があり各地方整備局に順応して北海道・東北とあり、関東地方ですと一都八

山田支部長挨拶

と本部があり、その下に総支部があり各地方整備局に順応して北海道・東北とあり、関東地方ですと一都八県になります。このよう

建設業と言う形で、今後ともこの組織をしっかりと守りながら皆様方のお力添い

になれるように、今後とも進めて行きたいと思っております。

皆様方のご支援をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 日本造園建設業協会 神奈川県支部 役員

Table with 3 columns: 役職名 (Position), 氏名 (Name), 会社名 (Company Name). Lists members like 山田康博 (President), 高橋更一 (Vice President), etc.

〔社〕日本造園建設業協会神奈川県支部主催の「第七回かながわ街路樹フォトコンテスト」表彰式が五月二十一日、ホテル横浜ガーデンで開催されました。

今回で七回目を数え、一六六名の応募がありました。藤井英二郎千葉大学教授、大河原雅彦元神奈川新聞写真部長、山田支部長の審査員により

**「第七回かながわ街路樹フォトコンテスト」表彰式開催**

最優秀賞・優秀賞各一点、佳作十一点、特別賞として神奈川県知事賞、神奈川県議会議長賞、街路樹剪定優秀賞等二十作品が選定され、表彰式では、大河原審査委員より各賞の講評が述べられ、続いて表彰式に移り、山田支部長より、「雪日」最優秀賞を平井正友氏、「晩秋」優秀賞を松山進氏に、続き各賞に賞状と賞金が授与されました。



大河原審査委員講評



表彰状授与

平井氏の作品は、「雪が降りしきる中、ビルの谷間でしつかりと存在感を見せる街路樹を捉えてくれた。狙った構図を生かすためのレンズの選択が的確。ワイドレンズではなく、中望遠レンズでの撮影だろう。左右に高層ビルを配置したのがこの作品のポイント。また人物の登場で樹木のスケールの大きさを見せている。説得力のある作品だ。」と選評されました。

来賓としてご臨席いただいた吉川伸治神奈川県副知事より、みどりは我々の生活の中で切っても切り離せない存在であり、特に神奈川県は国土面積は全国から五番目と狭い県でありながら、四割が実は森林であり、都市圏にあつてみどりを保全する事は、我々がやらなければならない仕事の大きな要素であると



神奈川県副知事挨拶

最近の動きでは、七月に「小網代の森」が環境の学習の場として完成しますので、是非皆様に使っていただき、これが本当に都市に残されたみどりなんだと実感していただきたい。そして十月にはみどりの祭典という事で、平成二十二年に天皇皇后両陛下をお迎えし、秦野、南足柄で開催されました全国植樹祭による種の苗木を生田で行います。いづれにしても、このみどりの取り組みの担い手は、神奈川県造園業

**「かながわのみどりを創り、育てる集い」開催**

第四十回神奈川県造園業協会通常総会・第三十八回日本造園建設業協会神奈川県支部通常総会終了後、「かながわのみどりを創り、育てる集い」が開催されました。

開会に先立ち、渡邊神奈川県造園業協会会長より挨拶、続いて役員改選により支部長に再任されました日本造園建設業協会神奈川県支部の山田支部長より挨拶が行われました。



神奈川県議会みどり議員連盟松田会長挨拶

協会、日本造園建設業協会神奈川県支部の皆様方の技術、知識を伝承していただける事こそ我々が取り組めることと思っております。そうした意味で、皆様方の活躍により神奈川県のみどりを守っていただく事が大きな我々の願いでありますので、宜しくお願いたします。



要望書提出



神奈川県議会みどり議員連盟松田会長挨拶

神奈川県造園業協会と日本造園建設業協会神奈川県支部共同で、七月に自由民主党神奈川県支部連合会・自由民主党神奈川県議会議員団へ次の六項目について要望した。

①景気・環境対策として、また、計画的な社会資本の整備保全や災害対策としての防災公園の設置等緑化関連公共事業の予算の確保・増加と受注機会の確保②公園・緑地及び道路、河川、港湾、住宅施設等のうち造園に関する整備及び維持工事は地域の実情に応じて分離し指定建設業種である造園専門業者に発注を、また、発注に当たっては公共工事の品質確保を図るため工事実績、造園に関する各種資格所有者の技術力等の評価の考慮③一般社団法人日本造園建設業協会認定の街路樹剪定士の積極的活用と街路樹剪定士を下請けではなく元請けの条件として仕様書の明記④校庭及び園庭の芝生化の推進を図るための助成措置と芝生化工事及び維持管理工事の造園工事専門業者への発注⑤三浦半島地域への国営公園の誘致活動の積極的な促進⑥不正行為の防止と不良不適格業者を排除するため業務実態調査の強化と調査結果の入札制度への反映について、造園業界の大変厳しい現状をふまえて要望事項の実現に向けて強く申し入れた。

ヒアリングの中で街路樹剪定士の資格を有する剪定士が九百五十名と増えている現状から、十分に元請けとして対応可能と思う。また、校庭及び園庭の芝生化の推進について、小中学校での総合的な学習時間に向いて、ランド、校庭を含めて芝生があることの素晴らしさを説明し、芝生化の推進を働きかける提案など論議された。

**「みどり行政に関する要望書」六項目提出**

### ●会員名簿の変更● (平成25年度名簿)

#### 社名変更

- 緑支部 (会員名簿P.28)  
市川園土木→(有)市川園土木

#### FAX変更

- 鶴見支部 (会員名簿P.24)  
緑創園  
FAX045-572-8065

#### 住所変更・代表者変更

- 戸塚支部 (会員名簿P.41)  
株港薬品造園  
〒245-0018  
横浜市泉区上飯田町2438-4  
代表者 藤白幸伸→藤白幸一
- 横浜中央支部 (会員名簿P.45)  
株ダイヤ緑地  
〒235-0045  
横浜市磯子区洋光台3丁目1-36  
TEL045-370-8338 FAX045-370-8315  
代表者 濱島千歳→岡本満

#### 住所変更

- 金沢・磯子支部 (会員名簿P.43)  
株並木園  
〒236-0051  
横浜市金沢区富岡東4丁目3-20天神荘103  
TEL045-272-0266 FAX045-272-1565

#### 代表者変更

- 港北支部 (会員名簿P.26)  
有中山造園資材  
代表者 中山秋治→中山鋭一
- 戸塚支部 (会員名簿P.41)  
有横山植木  
代表者 横山一平→横山太一
- 金沢・磯子支部 (会員名簿P.43)  
京急緑地開発株  
代表者 山田健彦→櫻野敏弘
- 金沢・磯子支部 (会員名簿P.44)  
株ニッパツサービス  
代表者 八代隆二→木村文昭
- 横浜中央支部 (会員名簿P.45)  
有細野植産  
代表者 細野仁→間淵武志
- 県北支部 (会員名簿P.68)  
有隆登緑化建設  
代表者 大木登→大木隆男

### 事務局情報

(月間行事一覧)  
●諸会議その他●

9/2 (火)	情報委員会 10:00～
9/3 (水)	街路樹剪定士資格更新研修会 13:00～ 横浜市情報文化センター情文ホール
9/6 (土) ～7 (日)	庭守 県立相模原公園日本庭園改修工事 7:40～
9/10 (水) ～12 (金)	高所作業車技能講習 8:15～ 相模原キャタピラー教習所
9/11 (木)	公園緑地部会正副部会長・委員長会 12:00～ 公園緑地部会 15:00～
9/16 (火)	県域青年部会 19:00～
9/19 (金)	関東甲信造園建設業協議会 (東京都造園緑化業協会主催)
9/25 (木)	平成27年度予算要望 (副知事・県土整備局・環境農政局) 10:00～
9/27 (土) ～28 (日)	県域青年部会相互交流研修会 (伊豆大島) 庭守 県立相模原公園日本庭園改修工事 7:40～
10/1 (水)	平成27年度予算要望 (神奈川県教育局) 16:00～
10/15 (水) ～16 (木)	街路樹剪定士認定研修会 9:00～
10/21 (火) ～22 (水)	平成27年度予算要望 (出先機関) 10:00～



病虫害防除講習会

協会と神奈川県農業技術センター病害虫防除部・神奈川県植木連合会と共催で平成二十六年第一回病虫害防除関係者講習会が七月三日「神奈川県民センター」において実施され、勢一八名(造園業関係七十名、植木連合会十一名、その他行政・団体三十七名)が参加、三時間に亘り「農薬の適正使用と安全管理」「住宅地における公園・街路樹等の防除技術」についての講義が行われました。この講習会は農薬散布時の人に対する健康や周辺住民・環境への安全性確保の大切さについて発注する側の行政と受注する造園関係事業所が共通認識を共有し、円滑な病虫害防除を図ることを目的とした重要な講習会で、講習会終了後出席者には「修了証」が手渡されました。

第2回目は平成二十七年二月四日(水)神奈川県農業技術センターに於いて実施する計画で現在受講希望者を募集しています。申込希望者は協会にお問い合わせください。

なお、詳細は神造協ホームページに掲載しております。



安全衛生講習会

七月三十日、あいおいニッセイ同和横浜ビルに於いて、協同組合主催「安全衛生講習会」が催され、インターリスケ総研の小山和博氏が「造園業における重大災害の防止と墜落・転落、重機との挟まれ、巻き込まれ災害を防ごう」をテーマに講演しました。

協同組合、石川正典理事の司会進行で始まり、冒頭、小山理事長が造園業の労働災害発生状況を報告し、講演では、小山氏が、労働災害発生状況や災害発生の要因、不安全行動のパターンや防ぎ方、危険予知活動、管理監督者の留意点などを事例を交えて説明。労働災害発生後の刑事・民事責任や行政処分、社会的責任、高額賠償事例を紹介し、安全活動が会社の健全経営の基盤となることを強調しました。

最後に質疑応答にはいり閉会となりました。

### 病虫害防除講習会開催

### 「安全衛生講習会」開催



## Bridal Banquet Stay Restaurant

### ホテル横浜ガーデン

〒231-0023 横浜市中区山下町254番地

お問合せ 045-641-1311

<http://www.yokohamagarden.jp>

平成二十六年年度

造園技能士実技講習会・実技検定試験・学科講習開催

実技講習会

七月十九日から二十二日迄の4日間横浜農協きた地区営農経済センターに於いて開催されました。

一級七十三名、二級四十四名が受講し、十名の指導員の熱心な指導を受け大汗をかきながら一生懸命取り組んでいました。

また、要素模擬試験では試験結果に一喜一憂し、要素の解説には真剣に耳と目を傾けていました。今年も熱中症対策として途中十五分の休憩をと

り、また、受講者に塩あめを配布しました。

実技検定試験

八月二日から四日迄三日間実技検定試験が行われ

ました。今年の検定受験者は、一級九十二名、二級一〇九名、三級八十六名計二八七名で検定員・補佐員の見守る中、これま

での研鑽と日頃培った技を發揮すべく暑さの中、一心不乱に作業に取り組んでいました。

協会の一大事業である実技講習会、検定実技試験、学科講習会に携わっている関係者の皆様のご尽力とご苦勞に感謝申し上げます。

一・二級造園技能士学科講習会を開催



八月十一日かながわ労働プラザに於いて一・二級造園技能士学科講習会を教育研修委員四人の講師により午前・午後にわたり教本造園施工必携とサブテキストを基に熱心に講義が行われ一級三十八名、二級二十八名計六十六名の受講生が真剣にメモを取っていました。



会場設営



技能検定1級モデル



技能検定1級実技講習会



技能検定2級実技講習会



技能検定要素模擬テスト



技能検定1級実技試験



技能検定2級実技試験審査



技能検定3級実技試験

# 支部だより

## 庭園見学会を実施 金沢・礪子支部青年部部長 大胡 隆典

梅の花咲くころ、金沢・礪子支部で、恒例の庭園見学会に行つて参りました。今回は、皆が訪問した経験が、少ないという事から、埼玉方面に見学地を求めました。

そぼ降る雨の中、バスに乗り込み、飯能へ向かいます。最初に伺つたのは、武陽山能仁寺です。室町中期の文亀元年(1501)に地元の武将・中山家勝が、僧を招き小庵を結んだのが、始まりとされます。家勝の子の家範が、本格的に



能仁寺本堂前 全員集合

寺院を創建、その後、徳川家の庇護をうけ、江戸中期元禄から享保にかけては、七堂伽藍を備え、五十人ほどの雲水をかかえる禅道場として、二十余の末寺を有し、寺格五十石の御朱印を頂くほどに栄えました。明治維新の「飯能戦争」では、振武軍が能仁寺を本陣とし、官軍の攻撃により、多くの民家と共に同寺院もほとんど焼失し、本堂は昭和十一年の再建。

山門を入り敷砂利の上り坂を進むと中雀門、正面に本堂、左に開山堂と並び、右手に人間国宝香取正彦の手による梵鐘を吊るした鐘楼、その先に一段下がって大書院。建物は、何れも新しいものですが、広々とした前庭に立つと、本堂の背後に名勝天覧山が迫り、奥武蔵の名刹は古の面影をしのばせま

す。大書院へ上がり、半月前の雪が残る、禅寺らしく手の行き届いたお庭を見ながら、広縁を通り本堂の北側に着きました。日本名園百選にも入っており、桃山時代の山時代の作庭と推定されるという、能仁寺本堂北庭を拜見しました。こちらの『池泉観音蓬萊庭園』は、自然の地形を生かし、天覧山の南側の比較的急な斜面を数段の枯流れ、枯滝の石組で下り、その脇には洞窟が見えます。所々に、さほど大きくない赤松を配した装いに、海に近い神奈川県とは、少し違った趣を感じます。下段は、浅い池に亀島、鶴島が浮かび、オーソドックスな禅の庭です。

次に、比企郡川島町の遠山記念館へと向かいます。この邸宅は、日興証券創立者の遠山元一が、幼少時に没落した生家を再興し、母親の住まいとしたものです。往時の生家と同じ約三千㎡の土地を買戻し、室岡惣七氏設計により、三棟の建物を渡り廊下で連結し、長屋門、土蔵を備え、伝統的日本建築は、二年七か月を費やし、昭和十一年の竣工。母の没後は、元一の接客に使われ、多くの賓客が訪れました。今回は、雛祭りの時期で、併設の美

術館には、長年収集された各年代、多様式の貴重な雛人形が、展示されています。重厚な長屋門をくぐると正面に茅葺の棟が見え、昭和初期という割には、古い年代の建築の様に見えますが、これは生家の再興を象徴した豪農風としたため。二階建ての中棟には、格式ある書院造りの大広間があり、娘さんの雛壇が飾ってありました。アメリカから輸送したという大きな板ガラス越しに広間から主庭を望むと、右に花の盛りを迎えた白梅、手前に広い芝生、細い流れの奥に赤松など、種々の巨木がそびえます。西棟には、母のために数寄屋造りの座敷が設けられ、三棟三様の建物は、成功者の威厳を感じさせますが、過度な装飾は少なく、全体に品の良い見飽きる事のないものです。櫺の玉壺の格天井や墨差し天王寺という濃淡模様の出た土壁など、吟味された材料に高度な建築技術を駆使し、現代

では、再現することのできない建築物として国の登録文化財に指定されています。庭へ出て中門から主庭へ入ると、組井筒から出た水が、庭内をゆるやかに流れます。榎や赤松に加え、かつての生家が梅屋敷と呼ばれていた事から、白梅も多く植えられ、流れの先は、屋敷の外の濠へと繋がっています。梅の後は、躑躅やサツキ、夏は花菖蒲と濠の蓮の花、秋の紅葉と四季折々に来訪者を迎えます。水運によつて運ばれたと伝わる、4tほどもある鞍馬の沓脱石も有りながら、一隅に咲く藪椿など、素朴でどこか懐かしさを感じます。建物だけでなく庭にもまた、「生家の再興」と「苦勞した母への感謝」と言う邸主の想いが、現れているのでしよう。

末筆になりましたが、今回の庭園見学会も、皆様の御協力により、有意義な時間を過ごすことが出来ました。心より御礼申し上げます。

庭を見ながら、広縁を通り本堂の北側に着きました。日本名園百選にも入っており、桃山時代の山時代の作庭と推定されるという、能仁寺本堂北庭を拜見しました。こちらの『池泉観音蓬萊庭園』は、自然の地形を生かし、天覧山の南側の比較的急な斜面を数段の枯流れ、枯滝の石組で下り、その脇には洞窟が見えます。所々に、さほど大きくない赤松を配した装いに、海に近い神奈川県とは、少し違った趣を感じます。下段は、浅い池に亀島、鶴島が浮かび、オーソドックスな禅の庭です。

次に、比企郡川島町の遠山記念館へと向かいます。この邸宅は、日興証券創立者の遠山元一が、幼少時に没落した生家を再興し、母親の住まいとしたものです。往時の生家と同じ約三千㎡の土地を買戻し、室岡惣七氏設計により、三棟の建物を渡り廊下で連結し、長屋門、土蔵を備え、伝統的日本建築は、二年七か月を費やし、昭和十一年の竣工。母の没後は、元一の接客に使われ、多くの賓客が訪れました。今回は、雛祭りの時期で、併設の美

術館には、長年収集された各年代、多様式の貴重な雛人形が、展示されています。重厚な長屋門をくぐると正面に茅葺の棟が見え、昭和初期という割には、古い年代の建築の様に見えますが、これは生家の再興を象徴した豪農風としたため。二階建ての中棟には、格式ある書院造りの大広間があり、娘さんの雛壇が飾ってありました。アメリカから輸送したという大きな板ガラス越しに広間から主庭を望むと、右に花の盛りを迎えた白梅、手前に広い芝生、細い流れの奥に赤松など、種々の巨木がそびえます。西棟には、母のために数寄屋造りの座敷が設けられ、三棟三様の建物は、成功者の威厳を感じさせますが、過度な装飾は少なく、全体に品の良い見飽きる事のないものです。櫺の玉壺の格天井や墨差し天王寺という濃淡模様の出た土壁など、吟味された材料に高度な建築技術を駆使し、現代

では、再現することのできない建築物として国の登録文化財に指定されています。庭へ出て中門から主庭へ入ると、組井筒から出た水が、庭内をゆるやかに流れます。榎や赤松に加え、かつての生家が梅屋敷と呼ばれていた事から、白梅も多く植えられ、流れの先は、屋敷の外の濠へと繋がっています。梅の後は、躑躅やサツキ、夏は花菖蒲と濠の蓮の花、秋の紅葉と四季折々に来訪者を迎えます。水運によつて運ばれたと伝わる、4tほどもある鞍馬の沓脱石も有りながら、一隅に咲く藪椿など、素朴でどこか懐かしさを感じます。建物だけでなく庭にもまた、「生家の再興」と「苦勞した母への感謝」と言う邸主の想いが、現れているのでしよう。

末筆になりましたが、今回の庭園見学会も、皆様の御協力により、有意義な時間を過ごすことが出来ました。心より御礼申し上げます。

庭園見学会を実施  
金沢・礪子支部青年部部長  
大胡 隆典

庭園見学会を実施  
金沢・礪子支部青年部部長  
大胡 隆典

庭園見学会を実施  
金沢・礪子支部青年部部長  
大胡 隆典



遠山記念館 茅葺玄関  
玄関 茅葺の豪農風のたたずまいがみごとである



遠山記念館 庭園 組井筒  
時代ののりが美しい

「根巻研修会」を開催  
(社)神造協内任意団体「横浜北部技術研修会」による  
情報委員 神奈川支部  
篠原 英夫

かねてより、隣接する三支部(鶴見、港北そして神奈川)は、単独で開催する事が難しい「庭園・名園めぐり」「技能講習の実施」等を相談しながら実施をし、研鑽に努めてまいりました。その第一弾として、標記の「根巻研修会」が企画されました。平成26年4月12日(土) 早朝7時30分より受付、8時00分よりこの度の研修会を主体的に指導された川田港北支部長の挨拶に続き、「根巻・座学」(会場:港北・しんよしだ中央会館)を担当された神奈川支部井上園・井上講師により「高木樽巻の安全について」「掘取り上の注意」「樹種(常緑・落葉等)による留意点」等、45分に亘る熱心な講義をされ、聴講生(三

支部分計30名)は目を爛々と輝かせ、聞き入っていた。短い休憩を挟み、実技会場である(有)アオキグリーン様園場へ全体で移動し、9時30分より「実技・高木樽巻」から再開した。30名を各10名三班編成とし、講師には港北支部より(有)アオキグリーン・青木氏、奥平園・山本氏、青年部から萩原氏が担当され、遊軍として座学を担当された井上講師も参加し、熱心な指導が始まり、時間も忘れて没頭する様が見てとれた。

そこはそれ、他のスタッフが見かねてストップをかけ、午前の部を終了し、13



井上講師講義



樽巻手本実演・青木講師



根巻状況



中低木根巻指導・萩原講師



集合記念写真

✓時00分より「高木樽巻」の  
残研修と、深根性の「次郎  
柿」の根巻を研修した。15  
分間の休憩を挟み、本研修  
の最終行程である「低木(シ  
マトネリコ)根巻」に移行  
した。成果品は写真を見て  
の通りである。

その後、スタッフ11名を  
含め41名で使用させて頂い  
た会場の片付け、清掃を行  
い、最後に記念写真を撮つ  
た。

参加した某若手技術者



シマトネリコ根巻成果

葉を結んでいました。

かくして、「根巻研修会」  
は無事に終了し、三支部の  
スタッフの苦勞は、充分に  
報われたものと思います。

なお、今回の実技研修の  
場を提供された、(株)アオキダ  
リン・青木社長に対し感謝  
の意を表し、又、講師の勞を  
執られた青木氏、山本氏、萩  
原氏及び井上氏に対し感謝申  
し上げる次第です。

次回を期して！

は、未だ経験が  
浅く、本日の座  
学・実技共にわ  
かり易く教えて  
貰い、今後につ  
ながると素直な  
感想を述べ、更  
なる上級編にも  
チャレンジした  
いので再度の研  
修会の開催をお  
願いたいです。

**竹垣勉強会**  
鶴見支部青年部長  
**瀧川 佳広**

八月一七日(日)鶴見支  
部青年部は、竹垣の勉強会  
を行いました。

今回の趣旨としては、人  
工竹垣の普及により、竹垣  
の創作が少なくなった今、  
何とか創作機会を増やして  
いく努力をしようというこ  
とから始まりました。

まずは、勉強する竹垣と  
して、現代の住宅スタイル  
にも比較的合わせやすい  
様、シンプル・モダンなコ  
ンセプトに材として黒竹を  
用い、しきり垣(すかし垣)  
として四ツ目垣、しゃへい  
垣として御簾垣と鉄砲垣を  
候補としました。

中でも鉄砲垣の勉強をし  
たいとの声が多く、一回目  
の勉強会として幅一間の鉄  
砲垣を創作することとしま  
した。

使用材料は、モダンなイ  
メージで比較的加工しやす  
い八角柱、厚さ三十mmの無  
目板、黒竹は七分を用い、  
胴縁の間取り、からげの方  
法など、諸先輩方のアドバ  
イス、資料などを参考とし、  
仕様を決め創作しました。

また、作業効率を高める  
為、電動工具の適切な使用  
より良い品質で提供出来る  
様、正確な作業を心掛け、  
勉強しました。

勉強会で作業をしている  
中、今後注意する点、改善

していく点など、さまざま  
な課題が出てきました。特  
に注意する点としては、黒  
竹や、さらし竹を立子とし  
て使用する場合、末口ふし  
止めでは長さ千七百mmが限  
度ということ、改善してい  
く点としては、一文字、二  
文字のからげ(一文字、二  
文字とは木賊垣に当てた用  
語のようで、鉄砲垣に関し  
ては一文字、二文字の变形  
と呼べば良いのでしま  
か)に時間を費やしてしま  
い練習する

た。青年部と  
しても諸先輩  
方からのご指  
導を受け、継  
承していき  
様、努力して  
参ります。

べき課題の  
ひとつとな  
りました。

また、完  
成作品の評  
価を支部に  
お願いした  
ところ、代  
表として加  
山善広副支  
部長が足を  
運んで下さ  
り、さまざ  
まな状況に  
応じた胴縁  
の間取り、  
縄の本数、  
立子の割付  
けなど、よ  
り良い作品  
を仕上げる  
方法をご指  
導いただき  
ました。

また、今  
回の竹垣に  
関しては良  
い評価をい  
ただきまし



スコヤ、定規を使い、正確に墨付けをする



7分竹の胴縁が上手く収まるよう、幅25mm、深さ40mmの  
ホゾ穴を電動ドリルで直角にあける



無目板が上手く収まるよう、ノミで正確に欠きを入れる



丁張りをを用い正確に柱を立て入れる



無目板がたわむのを防ぐため、束柱を据える



胴縁、立子をスライド丸ノコで正確にそろえる



竹を技折りながら胴縁を組む



立子を割り付けからげていく



鉄砲垣完成



加山副支部長より評価を頂く



勉強会参加者